

私が小学3年生のとき、理科の授業で、学年全員でたくさんのモンシロチョウの卵を育てて、幼虫から羽化させ、その成長過程を観察するという授業を受けたことがありました。初めのうちは、「いもむしが気持ち悪い！」と言って、観察すること自体を拒否する人がいたり、必要以上に幼虫を触って遊んでいる人がいたり、授業どころではありませんでした。

しかし、時間が経つにつれて、多くの人が真剣に授業に向き合うようになっていきました。しだいに、他の学年の人たちや大勢の先生が、幼虫を見るために教室に来るようになり、学校全体で飼育することになりました。クラスの人たち、同じ学年の人たち、他の学年の人たち、大勢の先生たちと一緒に協力し、毎日必死になってお世話をしていました。

しばらくしてから、1匹が幼虫からさなぎへと成長しました。その後も、たくさんの幼虫がさなぎになり、やがて成虫のモンシロチョウへと成長していきました。最後の1匹が成虫になり、飛び立っていったあとに、理科の先生がこう言いました。

「すべての幼虫が、おとなのモンシロチョウへと成長しましたね。みなさんが真剣に、モンシロチョウと向き合ってくれたおかげで、モンシロチョウの観察だけではなく、命の大切さも学ぶことができましたね」と。

私は、このときの先生の言葉が、当時の私の心にとっても深く響いたことをよく覚えています。初めは理科の授業の一環で、「みんなでモンシロチョウを育てて、成長過程を観察する」という目標でしたが、他の学年の人たちや大勢の先生たちと、毎日必死になりながら、一緒に育てたことで、「命に対する責任の重さ、大切さ」に気づくという、初めの時点では目標ではなかった、別の大きな事柄も達成することができました。

マータイさんのグリーンベルト運動についての文章を読んだとき、私はこの体験を思い出しました。起こっていることの規模の大きさは違っても、本質は同じだと思ったからです。

グリーンベルト運動では、植樹をしていくことによって、大勢の一般市民が動員され、民主的な権利を守るために、変化をもたらそうと行動を起こしていきました。そして、グリーンベルト運動の当初からの目標であった、「子どもたちの教育と家庭のニーズのサポートのために、燃料、食料、避難所、収入を提供する」ということに加えて、女性の社会的および経済的地位における権力の獲得という、大きな事柄も達成しました。

私は、どんな小さなことでも一生懸命に続けていると、周りの人たちと一体となり、初めのうちには見えていなかった、大きな事柄も達成することができると考えています。大きなことは高校生だからできないと言って諦めず、小さいことから始めていくことが大切で、マータイさんの言っていた「若者のエネルギーと創造力」につながっていくと思います。